

# ホケンダイつきいちぜミ(2026年 1月号)

Q1.研究テーマを教えてください。

医療における外国人とのコミュニケーション

1. 青森県の外国人医療にかかるヘルスコミュニケーション研究～言語的サポートツールの検討
2. 日本の医療通訳の現状と課題

Q2.お名前と今の仕事の内容を教えてください。

川内規会(KAWAUCHI KIE)

青森県立保健大学健康科学部総合教育部門 大学院健康科学研究科 教授

学部科目:「人間関係とコミュニケーション」「人間関係論」「英語論文読解」等を担当

大学院科目:「学術英語読解」を担当

2013年～2019年 青森県初の「医療通訳養成研修」を企画・実施



# ホケンダイつきいちぜミ(2026年 1月号)



Q3. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。



青森県立保健大学 大学院健康科学研究科

対人ケアマネジメント領域 対人コミュニケーション研究室 川内規会



Q4. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



1. 医療現場で外国人患者と医療者の間では、いまだ言語の問題によるトラブルが多いのが現状です。特に青森県の在留外国人・訪日外国人がスムーズな治療や医療的アドバイスが受けられるよう改善できれば良いと考えました。

2. 言語的サポートができる医療通訳の必要性と育成について、また翻訳機では対応できない数々の課題等を整理しようと思いました。

# ホケンダイつきいちぜミ(2026年 1月号)



Q5.それはどんな研究ですか。



- 外国人患者と医療者間のヘルスコミュニケーションがスムーズに行われているか調査し、その後県内のクリニックや診療所で必要とされる言語サポートツールとして多言語支援のアプリ開発を行い、社会実装を試みました(プロジェクト研究)。
- 医療通訳がどの場面で必要になるか、医療現場の言語対応の現状を調査し、医療者や通訳者の声をまとめ、翻訳機では対応できない課題を整理しています。



Q6.どんな成果が得られますか。



- クリニックや診療所の医療場面でシームレスに使用できる言語的サポートツール「生成AI多言語支援アプリ」の第一段階を開発しました(プロジェクト研究)。
- 外国人患者と医療者間のコミュニケーションにおいて、医療通訳者によるサポートを得ることができる体制や医療通訳者養成の基盤づくりを行っています。

# ホケンダイつきいちぜミ(2026年 1月号)



**Q7.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。**



1. 県内のクリニックや診療所において、外国人診療時に本アプリが活用できることを願っています。
2. 大病院で医療通訳を活用できる体制の構築に役立てていただきたいと思います。



**Q8.皆さんにメッセージをお願いします。**



誰もが治療を受ける権利や健康情報を知る権利があります。

「情報保障」は医療の現場では、とても大きな視点です。DEI(DIVERSITY EQUITY INCLUSION)の考え方を基盤に、人と人とのかかわりを考えてみませんか。

# ホケンダイつきいちぜミ(2026年 1月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことを  
もっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいで  
すか？



川内のメールアドレス [K\\_KAWAUCHI@MS.AUHW.AC.JP](mailto:K_KAWAUCHI@MS.AUHW.AC.JP)(すべて小文字)  
まで。



川内先生、ありがとうございました。  
保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、  
情報を発信していきます！！